

## 表紙

### 表題

児童および青少年 (7-16 才) が若者ギャングに関与することを防ぐための認知行動的介入

### レビューアー

Fisher, H, Gardner FEM, Montgomery P

### 更新履歴

編集日 : 2008 年 2 月 21 日

実質的更新の最新日 : 2008 年 1 月 15 日

微細な更新の最新日 : 2008 年 2 月 20 日

次段階予定日 : 2008 年 1 月 1 日

プロトコル初版公表日 : 第 4 版、2007 年

レビュー初版公表日 : 第 2 版、2008 年

### レビューアー連絡先

Dr Paul Montgomery

University Lecturer

The Centre for Evidence-Based Intervention

University of Oxford

Barnett House

32 Wellington Square

Oxford

UK

OX1 2ER

Telephone 1 : +44 1865 280 325

Facsimile : +44 1865 270 324

Email : paul.montgomery@socres.ox.ac.uk

URL : <http://www.spsw.ox.ac.uk/cebi>

## レビューアーの分担

ヘリック・フィッシャー：着想、プロトコル、検索、レビュー対象の選定、レビューの執筆

ポール・モンゴメリー：プロトコル・デザイン、データ管理とデータ統合、レビューの編集

フランシス・ガードナー：プロトコル・デザイン、レビュー対象の選定、最終レビューの編集

## 内部助成

オックスフォード大学実証的介入センター、イギリス

## 外部助成

ノルディック・キャンベル・センター、デンマーク

## 公表された注記

本レビューはキャンベル共同計画とコクラン共同計画に共同登録されている。

# レビュー本文

## 概要

研究の結果、ギャング集団に属している若者は、ギャング集団に属していない若者やギャング集団に属していない非行青少年に比べ、非行行為や犯罪、特に重大で暴力的な犯罪に関与しがちであることがわかっている。また、非行青少年やギャング集団に属している若者は、そうでない同年代の若者に比べて、しばしばさまざまな否定的な思考、感情、信念を示すことも明らかになっている。こうした問題に対処するために考えられた認知行動的介入は、子どもと青少年の各種の行動障害と心理的障害にプラスの影響を及ぼす。このシステマティック・レビューは、青少年のギャングへの関与を防ぐ上でのそうした認知行動的介入の有効性を評価するものである。3つの部分で構成される検索方針で検索したところ、ギャングへの関与を防ぐための認知行動的介入の有効性を調べるランダム化比較実験、または準ランダム化比較実験は見つからなかった。「ギャングに対する抵抗教育訓練」(Gang Resistance Education and Training : GREAT) の効果を調べる研究4件は、この分析の対象とするには質が低かったため、対象から除外された。したがって、このレビューから得られる唯一の可能な結論は、ギャングへの関与を防ぐ認知行動的介入の一次評価を行うことが急務であるということ、および将来のプログラムや政策の指針となる意味のある研究結果を得るために水準の高い研究を実行することが重要であるということである。

## 要約

### 背景

多くの研究がギャング集団への所属と重大な非行の間に強力で一貫した関係があり、ギャング集団のメンバーはそうでない同年代の若者に比べて犯罪に関与する率が不釣り合いに大きいことを実証している。また、研究の結果は、非行青少年もギャング集団に属する青少年も、非行行動を取っていない者に比べ、社会 - 認知過程にさまざまな欠陥や歪みがある

場合が多いことも示している。認知行動的介入は、不適応行動または機能不全行動を減らすために考えられたものであり、各種の研究は、子どもと青少年の行動障害と心理的障害にプラスの影響を及ぼすことを実証している。

## 目的

児童および青少年（7-16 才）の若者ギャングへの関与を防ぐための認知行動的介入の有効性を見きわめること

## 検索方針

2007 年 4 月までの ASSIA、CINAHL、CJA、Cochrane Library、Dissertations Abstracts A、EMBASE、ERIC、IBSS、LILACs、Lexis Nexis Butterworths、MEDLINE、NCJR Service Abstracts Database、PsycINFO、Sociological Abstracts の電子検索を行う。さらにレビュアーは関連する組織、個人、リストサーバに問い合わせ、関連するウェブサイトと参考文献一覧の検索を行った。

## レビュー対象の選定基準

ギャングに関与していない 7-16 才の青少年と児童に対して実行された、認知行動的介入が主要な構成となっている介入すべてのランダム化比較実験または準ランダム化比較実験

## データの収集と分析

検索の結果、重複なしで 2,284 件の引用が見つかり、そのうち 2,271 件が題名と要約に基づいて無関係と判断され、レビュー対象から除外された。さらに研究者への直接問い合わせの結果、1 件が除外された。現在、ランダム化された大規模な予防実験 1 件が評価待ちである。この研究報告の執筆者に直接問い合わせたところ、ギャングに関するアウトカムを論じた未公表の報告書が得られたが、詳細が十分ではないことから、レビュー対象に含むと決定することができなかった。残りの報告のうち 7 件は、叙述的なレビューである、

評価を伴わないプログラムの記述である、ギャング防止プログラムを扱っていない、または認知行動的介入を含むギャング防止プログラムを扱っていないという理由により、無関係と判断され、レビュー対象から除外された。残りの4件は全文の検討を行った結果、研究デザインの問題のためにレビュー対象から除外された。その結果、本レビューに含まれる研究はゼロ件であった。

## 主なレビュー結果

ランダム化比較実験または準ランダム化比較実験は見つからなかった。

## レビューアの結論

ギャング防止の認知行動的介入の有効性に関して、ランダム化比較実験または準ランダム化比較実験によるエビデンスは存在しない。米国の全国評価の一部である2件を含め、「ギャングに対する抵抗教育訓練」(GREAT)に関する4件の評価が行われたが、研究デザインに基づき、そのすべてがレビュー対象から除外された。レビューアは、この研究分野を発展させ、将来のギャング防止プログラムと政策の指針とするために、ギャング防止のための認知行動的介入に関する厳密な一次評価を行うことが急務であると結論する。

## 背景

### 若者ギャングの定義

若者ギャングに関する普遍的なモデルがないという現実を反映して、異論なく受け入れられている若者ギャングの定義はない。しかし、一般に、いくつかの特徴が他の若者集団や組織犯罪集団から若者ギャングを区別している。それは主として、犯罪行為、典型的には各種の刑事犯罪に関与すること、そして、名前、シンボル、色、物理的もしくは経済的テリトリーとの関連を通して共有されたアイデンティティを持っていることである (Huff 1993 ; Spergel 1993 ; Spergel 1994 ; Howell 1998 ; Esbensen 2000 ; White 2002 ; OJJDP 2004 ; Carlsson 2005)。若者ギャングの定義のほとんどは何らかの形でこの2つの特徴に言及しているが、地域によって異なる具体的な集団の特徴やギャング組織構造が含まれる

場合も多い。米国でも、また国際的にも、ほとんどのギャングメンバーは青年期にあり、米国ではギャング集団に入ることが最も多い年齢、および犯罪への関与が増える年齢は 11 才から 15 才である (Kodluboy 1993 ; Huff 1998 ; Hill 2001 ; OJJDP 2004)。また、米国で行われた調査の結果は、ほとんどのギャングメンバーが民族的または人種的マイノリティー、特にヒスパニック系と黒人／アフリカ系アメリカ人であり、大部分が男性であることを示している。ただし、マイノリティー以外と女性のギャングメンバーの比率は、行政区域のタイプによって、および自己報告か法執行機関のデータかによって、大きく異なる (Moore 1998 ; Moore 1999 ; Egley 2000 ; Egley 2006 ; Snyder 2006)。本レビューで用いられたギャングの定義は、ヨーロッパギャング調査プログラムと少年司法犯罪防止局の定義 (OJJDP 2004) に基づき、共通の一般的特性を認識しながら、そうしたギャングの多様性を取り入れることが意図されている。若者ギャングとは、刑務所内のギャング、イデオロギー的なギャング、ヘイト・グループ、暴走族を除き (Huff 1993 ; Howell 1998)、「不法行為への関与が集団のアイデンティティの一部である、継続的なストリート志向の若者集団」(Esbensen 2005) と定義される。

### 若者ギャングの国際的な広がり

若者ギャングの研究のほとんどは米国で行われている。米国では、活動中のギャング集団の数が最も多かった 1990 年代半ばには、その数は 30,000 を超え、ギャングに加わる者の数は全国で 84 万人に達した (Moore 1998 ; Snyder 2006)。最新のデータでは、全米におよそ 24,000 のギャング集団があり、活動中のメンバーは 76 万人であると見積もられている (Snyder 2006)。国際的には、ギャングに関する研究は始まったばかりであるが、ストリートギャング、またはときに「迷惑な若者集団 (troublesome youth group)」(Decker 2005) とよばれる集団は、南米、ヨーロッパ、アジア、アフリカの先進国と途上国にも存在する (Covey 2003 ; Carlsson 2005 ; Decker 2005 ; Papachristos 2005 ; Klein 2006)。予備的な調査から、これらの国のいくつかにおける若者ギャングは、大規模に調査が行われている米国のストリートギャングの特性、出現パターン、行動に類似しているという結論が得られている (Klein 1995)。

### 非行の認知行動理論

これまでの研究から、非行行動を取る子どもや青少年はしばしば、そうでない集団に比べ、

社会的手がかりの認識 (符号化と表象)、社会的ジレンマの解決策の選択、攻撃性の統制、セルフコントロール、統制の所在、長期的プランニング、結果予期、自己認識、共感と役割取得、道徳的推論といった、さまざまな社会 - 認知過程について欠陥や歪みを示すことが明らかになっている (Gibbs 193; Goldstein 1993; Hollin 1993; Lochman 1994; Lipsey 2006)。認知発達 は人生の最初の 2 年間という早い時期から社会的行動をコントロールする能力に影響を及ぼし始めると思われ (Wasserman 2003)、それぞれのタイプの社会 - 認知の歪みが暴力的な子どもおよび中程度に攻撃的な子どもの集団内での相違に独自の寄与をすることが研究から示されている (Lochman 1994)。また、拒否のためのスキルの欠如、社会的能力の欠如、逸脱的態度、運命論的な世界観、反社会的行動やギャング集団への加入に対する肯定的態度など、いくつかの社会 - 認知的な欠陥や歪みが、青少年のギャングへの関与の危険因子であると特定されている (Howell 1998; Maxson 1998; Hill 1999; OJJDP 2004)。青少年のギャングへの関与の理論の中には、こうした認知的なメカニズムやその他の個人的リスクもしくは防御因子を強調するものと、社会的秩序の崩壊、社会的規制、緊張理論など、もっとマクロなアプローチをとるものがある。

## 認知行動的介入

認知行動的介入とは、不適応行動または機能不全行動を減少させるために、こうした認知的な欠陥や学習パターンに対処するように考えられた介入方法である (Connor 2002; DOH 2001; Farrington 2002; Lipsey 2006; Turner 2007)。これはスキルを基本とし、非行と行動変化に関する認知理論や学習理論に基づいた認知行動療法の各種のアプローチが組み合わされている (DOH 2001)。一般的な手法は、怒りの管理、共感、社会的視点の獲得、水平思考、批判的思考、問題解決、セルフコントロール、自己教育、ライフスキルの向上、目標設定、道徳的推論、社会的情報処理、社会的スキルの訓練などである (Gibbs 1993; Goldstein 1993; Hollin 1993; Ribisl 1993; Stephens 1993; McGuire 2000; Connor 2002; Farrington 2002; Andreassen 2006; Lipsey 2006)。加えて、認知行動的介入は、新しいスキルや認知プロセスを強化するために、ロールプレイや現実の状況での練習などを含むことが多い。また、複数コンポーネントで構成される介入や予防プログラムにおいては、レクリエーションを使った介入やメンタリングといった他の介入方法と組み合わされることもある (Connor 2002; Lipsey 2006)。

研究の結果から、認知行動的介入は子どもと青少年の非行行動や反社会的行動を減少させることが示されている（Connor 2002；Farrington 2002）。いくつかのメタアナリシスは、認知行動プログラムが青少年と成人の犯罪者の再犯を減らす上で効果があることを明らかにしている（Lipsey 2001；Pearson 2002；Landenberger 2005；Wilson 2005）。さらに、過去 20 年にわたる研究は、認知行動プログラムは各種の行動障害と心理的障害にプラスのアウトカムを生み出しうることを示している（DOH 2001；Andreassen 2006；Turner 2007）。

### ギャング防止に対する認知行動的介入の可能性

認知行動的介入は青少年のギャングへの関与を防止する上でも効果があるかもしれない。非行防止対策をギャング防止にも利用する根拠は、非行の危険因子とギャングへの関与の危険因子、特に社会 - 認知的態度が重複するということである（Howell 1998；Maxson 1998；Hill 1999；OJJDP 2004）。また、長期的な分析から、過去の非行行動、問題行動または暴力も、その後の青少年のギャングへの関与に関する強力な予測因子であることが明らかになっている（同上）。認知行動的介入は、非行行動を削減することによってギャングへの関与を削減するという持ち越し効果を持つか、または非行に対する影響とは関係なく独自に青少年のギャングへの関与に影響を及ぼす可能性がある。最後に、固定化した問題行動を減少させる上での認知行動的介入の有効性が実証されていることは、青少年のギャング防止に適用しうる行動変化の認知行動モデルが有効である可能性を示唆している。

青少年の発達段階とギャングへの関与に関する研究は、児童期の終わりから青年期のはじめ、おおよそ 7 才から 16 才の間にギャング防止のための認知行動的介入が行われたときに、この介入が有効性を持つ可能性が最も高いということを示唆している。青少年のこの時期は、親の監督が少なくなり、コミュニティ内での独立性が強まる時期である（Dishion 1999）。これには、仲間の影響が次第に顕著になり、仲間の逸脱行動があらわれ始める児童期中期が含まれるが、これは若者ギャングへの関与の前触れであるように思われる（Howell 1998；Maxson 1998；Hill 1999；OJJDP 2004）。若者が防止プログラムに最もよく反応すると思われるのは、このような仲間集団とギャング発達の初期の段階である（Kodluboy 1993；Huff 1998；Hill 2001；Connor 2002；OJJDP 2004）。



過去 15 年、ギャング防止プログラムの叙事的なサマリーが報告され、再犯やその他の行動上の問題を削減するための認知行動的介入に関するメタアナリシスが行われているが、若者のギャングへの関与を防止する上での認知行動的介入の有効性がシステマティックに評価されたことはなかった。本レビューは、ギャング防止研究の基礎におけるこの重要な欠落に対処し、それによって実務者および政策決定者が自分たちの社会における若者ギャングの存在に対応する上で科学的根拠に基づいた介入を開発できるようにすることを目指している。

## 目的

子どもと青少年（7–16 才）の若者ギャングへの関与を防ぐための認知行動的介入の有効性を評価すること

## 本レビューの対象とする研究の基準

### 研究のタイプ

集団への割付けがランダムまたは準ランダム（たとえば、アルファベット順、交互、曜日などによる割付けなど）である場合に、本レビューの対象に含まれる。

### 参加者のタイプ

ギャングに関与していない 7–16 才の子どもと青少年とする。

### 介入のタイプ

「背景」において定義された認知行動的介入とする。

認知行動的介入をレクリエーション介入や機会提供といったその他の介入と組み合わせたプログラムは、頻度と長さに基づき、認知行動的介入が主たる介入である、すなわちプログ

ラム設計全体の 50%以上であるとレビューアー（HF、FG、PM）全員が独立して判断した場合にのみ、本レビューの対象に含まれた。レビューアーの間に意見の不一致があった場合、または認知行動的介入の比率がプログラムの 40%から 60%の間であると推定された場合には、研究の原著者に問い合わせ、詳しい情報を求めることになっていた。

認知行動的介入を含んでいるものの、主たる介入が「機会提供」となっている複数コンポーネント介入プログラムについては、本レビューから除外し、別のレビュー（子どもと青少年（7-16 才）の若者ギャングへの関与を防ぐための機会提供）に含むかどうかの検討が行われることになっていた。

主たるコンポーネントがそれ以外の介入である研究は、本レビューから除外された。

認知行動的介入の主な比較対照は無介入である。他の介入との比較、特にギャング防止もしくは非行防止のためのその他の介入、またはその他の社会サービスや支援的介入が対照群に与えられた研究は本レビューに含まれるが、個別に論じられることになっていた。

## アウトカム指標のタイプ

### 一次アウトカム指標：

主たるアウトカム指標には以下が含まれる。

- 1) ギャング集団への所属状況（二分法）
- 2) 殺人、暴行、強盗、窃盗、麻薬密売を含め、ギャングに関連した非行行動と刑事犯罪での有罪

### 二次的なアウトカム指標：

- 1) 行動、認知または社会スキルの指標。すなわち怒りの管理、共感、社会的視点の取得、問題解決、セルフコントロール、自己教育、目標設定、道徳的推論、または社会的情報の処理
- 2) ギャング活動とは関係のない、またはギャング集団に属していない個人による非行行動および刑事犯罪
- 3) 非行行動を取る仲間とのつながり（二値変数、非行行動を取る仲間と共に過ごす時間の比率、または非行者と特定された友人の割合という形で、仲間の非行のレベルを通して

測定)

- 4) 不法な薬物乱用の客観的および主観的な指標
- 5) 自己報告または病院の記録によって決定される、a) ギャングに関連した活動、またはb) 非行行動による入院または負傷
- 6) 銃器の所持（有罪判決および自己報告）
- 7) 学校の報告による不登校
- 8) アウトカム測定時に18才以下の若者の学業成績
- 9) アウトカム測定時に16才以上の若者の雇用状態

こうした指標の多くは、将来の犯罪の予測因子として選ばれている。そのため、これらは信頼性も妥当性も高いものであることが重要である。ゆえに、用いられる指標は次の最低基準を満たさなければならない。i) その指標の心理測定の特徴が書籍または査読付き学術誌に記述されていること、およびii) その指標が（a）自己報告、または（b）独立した評価者もしくは血縁者による報告であること。

アウトカムを測定するために使われる手段には、自己報告、または学校、警察、保護観察、裁判所のデータなど、公的な記録が含まれる。自己報告およびその他の報告のアウトカム指標に食い違いがあれば、適宜、個別に分析されるが、信頼性に関する順位付けはなされない（Dishion 2005）。

利用できる場合には、問題行動や関連する構造概念の行動指標や態度指標、たとえば「全国評価 GREAT 生徒質問票(the National Evaluation of GREAT Student Questionnaire)」(Esbensen 1999) が含まれる。

アウトカムは量的な形で報告され、実験群と対照群の両方に関するエンドポイント（介入後）のデータが含まなければならない。

### アウトカムの間隔

介入の持続性を評価するため、可能であれば、介入後の6ヶ月までの短期追跡期間後、18ヶ月までの中期追跡期間後、および5年までの長期追跡期間後にアウトカムが測定される。

## 対象となる研究を探すための検索方法

関連するすべての文献を捉えるチャンスを最大にするために、3部から成る検索方法をとった。

### I. 電子的検索

発表された研究および未発表の研究を探すためにデータベースの検索を行った。ほとんどのデータベースは英語で検索を行ったが、検索結果に言語による制限はかけなかった。試験的な検索の結果、方法論によってフィルターをかけると関連する研究が除外される可能性があることがわかったため、方法論によるフィルターは適用しなかった。特異度の高い検索方法（無関連の論文の数が少なくなる検索方法）ではなく、感度の高い検索（関連する報告の取りこぼしが少なくなる検索）が用いられた。

電子的検索を行ったのは以下のデータベースである。

The Cochrane Library (2007年 Issue 2)

MEDLINE (1950年から2007年4月第3週まで)

ASSIA (1987年から2007年4月まで)

CINAHL (1982年から2007年4月第4週まで)

Criminal Justice Abstracts (1968年から2007年11月まで)

Dissertation Abstracts (1861年から2007年4月まで)

EMBASE (1980年から2007年第17週まで)

ERIC (1966年から2007年5月まで)

International Bibliography of Social Sciences (IBSS) (1951年から2007年4月第4週まで)

LexisNexis Butterworth Services (2007年4月まで)

LILACS (2007年4月まで)

National Criminal Justice Reference Service (2007年10月まで)

PsycINFO (1806年から2007年4月第1週まで)

Sociological Abstracts (最初から2007年まで)

The Cochrane Library (The Cochrane Database of Systematic Reviews、Database of Abstracts of Reviews of Effects、The Cochrane Central Register of Controlled Trials、The Cochrane Methodology Register、Health Technology Assessment Database、NHS Economic Evaluation Database、About The Cochrane Collaboration を含む) に用いた検索方法は次のとおりである。

[(MeSH descriptor Adolescent explode all trees) OR (youth OR adolescen\* OR juvenile OR child OR schoolchild OR boy OR girl OR teen OR (young person\*) OR (young people\*))]:ti,ab,kw]

AND

[(MeSH descriptor Juvenile Delinquency explode all trees) OR (gang OR delinquen\* OR devian\* OR (anti NEXT social) OR (youth\* NEAR group))]:ti,ab,kw]

AND

[(MeSH descriptor Cognitive Therapy explode all trees) OR ((cognitive NEAR/3 (therapy OR training)) OR (behavio\*r NEAR/3 (therapy OR training OR modif\*)) OR (skill NEAR/3 training))]:ti,ab,kw]

他のすべてのデータベースに関しては、必要に応じて条件文を修正した。表 01、表 02、表 03、表 04、表 05、表 06、表 07、表 08、表 09、表 10、表 11 を参照のこと。

## II. 関係者への問い合わせ

適切な政府省庁、非政府組織、非営利団体、権利擁護団体、ユーザー・グループ、この分野の専門家に対して問い合わせを行った。また、非行防止とギャングに関連した電子メールリスト (list-servs) に、研究を見つけるための支援を要請する手紙を送付した。

主レビュアーがこのレビューの対象に含まれる研究と除外された研究すべての原著者に連絡を取り、現在進めている研究、および未発表の研究について詳細を提供するよう要請した。

### Ⅲ. ハンド・サーチ

主レビュアーが、ユーザー、政府、その他の機関、研究者が維持するものを含む関連ウェブサイト、ならびにこれまでのレビューに記された参考文献リスト、およびレビューに含まれた研究と除外された研究の参考文献リストを検索した。

## レビューの方法

本レビューの対象選定基準を満たす比較実験はなかった。プロトコルにおいて計画され、本レビューの将来のアップデートに用いるためにアーカイブに保管されたレビュー方法の情報については、表 14 を参照のこと。

## 研究の記述

この検索方法により、重複なしで 2,284 件の引用が見つかった。それらが本レビューに関連するかどうかを調べるため、HF と FG が表題と摘要をチェックし、明らかに無関係であるとして 2,271 件を除外した。1 件は関連する可能性があると思われたが、この研究の原著者に問い合わせたところ、認知行動コンポーネントを持つギャング防止プログラムを扱ったものではないことが明らかになったため、分析対象から除外した。もう 1 件、非行に関連した別のアウトカムが発表された大規模な無作為割り付けのなされた防止試行の引用も、関連する可能性があると思われた。この研究の原著者に問い合わせたところ、ギャングに関するアウトカムを論じた未発表の報告（会議用、スライド・プレゼンテーション；Lacourse 2003）が見つかったが、研究内容とアウトカムに関する詳細が不十分であるため、レビュー対象に含むか除外するかを判断することができなかった。現在、この引用は評価待ちの状況である。

両レビュアーが関連するかもしれないと感じた残りの 11 件について、全文が検索された。

両レビュアーがこれらの論文の全文を調べた結果、明らかに無関係であるとして 7 件が除外された。その理由は、評価を伴わないプログラムの記述または叙述的なレビューである（3 件）、ギャング防止プログラムを扱ったものではない（3 件）、認知行動的介入を含むギャング防止プログラムを扱ったものではない（1 件）ということであった。残りの 4 件

はすべて米国の「ギャングに対する抵抗教育訓練」（GREAT）の評価であった。これらがこのレビューの選定基準を満たすかどうかを調べたところ、いずれもランダム化または準ランダム化された試験とはみなされなかったため、すべてが分析から除外された。これら4件の研究方法と結果は、「除外された研究」の表、「研究の記述」、および「論考」に提示されている。

これらの検討の結果、レビュー対象に含まれる研究はゼロ件であった。

研究をレビュー対象に含むか除外するかについて、レビュー者間での意見の不一致はなかった。しかし、最初の意見の不一致が付加的情報によって解決されると考えられた場合には研究の原著者に問い合わせることになっていた。また、意見の一致に達することができない場合には、CDPLPG のレビュー・グループ・コーディネーターに助言を求めることになっていた。

QUORUM ステートメント（Moher 1999）に従い、比較実験の選定プロセスのフローチャートが作成された。図 01 を参照のこと。

本レビューの対象に含むかどうかの基準に関して、4 件の研究の評価が行われた。その結果、いずれもランダム化または準ランダム化された研究とはみなされなかったため、4 件すべてがこの分析から除外された（「除外された研究」の表参照）。

除外された研究はすべて、米国の「ギャングに対する抵抗教育訓練」（GREAT）の評価であった。GREAT は行動変化の認知アプローチに基づくギャング防止プログラムである（Esbensen 1999 ; Esbensen 2002 ; OJJDP 2004）。9 週間にわたって制服警察官によって学校で実行される GREAT カリキュラムには、若者の暴力と若者ギャングへの関与を回避することを目指して、ライフスキルを教えるとともに、自分に力や能力があるという感覚、および自分は役に立つ人間であるという感覚を生徒たちに持たせるための 13 のセッションを含んでいる（Esbensen 1999 ; Lundman 2001 ; Esbensen 2002 ; OJJDP 2004）。

最初に除外された研究（Palumbo 1995）は、複数の試験場所で 2,029 人の生徒に GREAT

プログラムを実施し、その前と後の調査によってこのプログラムのインパクトを評価するものであった。この研究が本レビューから除外されたのは、比較群が設定されていないため、たとえば成長など、この介入プログラム以外のファクターがアウトカム指標に及ぼしたかもしれない影響を評価することができなかつたからである。また、この研究には追跡期間が設けられておらず、プログラムの効果の持続性や、遅れて現れる効果の存在を評価することができなかつた。さらに、この研究のアウトカム指標が態度に絞られていることから、研究者が意図した変化が本当に評価されてはいないかもしれないという問題があつた。すなわち、ギャングメンバーになりたいと思うかどうかに関する生徒の自己報告が、最終的にギャングメンバーになるかどうかを反映していない可能性がある。

次に除外された研究（Ramsey 2003）は、ランダム化されていないコホートの設計を用いるものであった。この研究では、GREAT プログラムに参加した 7 年生（274 人）と、同じ学校で GREAT に参加しなかつた 8 年生（148 人）とを比較することにより、GREAT のインパクトが調査された。この研究が除外されたのは、生徒の集団がランダム化されておらず、生徒が学年に基づいて集団に割付けられていたためである。加えて、集団の特性のベースライン・アセスメントがなされていなかったため、集団の比較可能性と選択のバイアスの評価をすることができなかつた。そのほか、全員が同じ学校の生徒であることから地理的な多様性がほとんどなく、結果の一般化が困難であること、実施の忠実さや参加者が実際に受けた介入コンポーネントに関する指標がないこと、アウトカム指標に行動の指標が取り入れられておらず、態度の変化のみが取り上げられていることも、方法論上の制約となつていた。

そのほかに除外された 2 つの研究は、米国の連邦アルコール・タバコ・火器取締局と国立司法研究所が資金を提供して行われた GREAT の全国評価の一部であつた。そのうちの 1 つ（Esbensen 1999）は、11 の都市で 5,935 人の 8 年生を対象とした横断的研究であつた。この研究では、2 つの事後比較群（前年に GREAT に参加した生徒と参加していない生徒）が設けられた。この研究の長所は、地理的な多様性があること、およびプログラムの効果の評価にバイアスをかける可能性のある個人間および学校間の違いをコントロールするために、ダミー変数を用いて漸次サンプルが制限されていることである。しかし、この研究には根本的な限界があつた。それは、生徒がランダムに各群に割付けられたのではなく、



所属クラスによって前もって決められていたことである。これが本レビューからこの研究を除外した理由である。この研究の原著者が論じているように、米国の学校ではトラッキングシステム——生徒が適性に基づいてクラス分けされるシステム——が一般的であることから、クラス間の不均質性が大きく、各学校の少数のクラスしか抽出されなかったならば、比較群間に統計的に有意な差が生じる可能性がある。この選択のバイアスの可能性は、両群の比較可能性に関するベースライン・アセスメントがなされていないために、いっそう大きな問題になっている。また、この研究では、公立学校での調査に伴う一般的な制約、すなわち、私立学校、不登校者、欠席者が除外されているために母集団にバイアスがある可能性があること、およびこのプログラムの長期的なインパクトを直接的に調べるための行動上のアウトカム指標が含まれていないことも問題であった。

除外された4件の最後であり、GREATの全国評価の2つ目である研究（Esbensen 2001）は、米国の6都市の22の学校における153クラスの3,568人の生徒について、4年間にわたる長期的な分析を行ったものである。各群への割付けはクラスレベルであった。22校のうちの15校では特定されない「ランダム・プロセス」、残りの7校では警察官の配置の都合または学区の制約により、有意割付けが用いられた。調査の結果は学校単位では出されておらず、原著者は、どの学校でランダム・プロセスが用いられたか、および具体的にどのようなプロセスが用いられたかを思い出すことができず、それに関する文書も作成されなかった（電子メールによる原著者への問い合わせ；2007年6月1日に主レビュアー（HF）によって送信されたメッセージ；2007年6月11日付けのFinn A. Esbensenからの返信）。ゆえに、この調査は不明確であり、最良の場合でも部分的にしかランダム化された割付けプロセスが用いられていないと考えられたため、この分析から除外された。

## 本レビューに含まれる研究の方法論的性質

本レビューの対象選定基準を満たすランダム化比較実験または準ランダム化比較実験は見出されなかった。

## 結果

本レビューの対象選定基準を満たすランダム化比較実験または準ランダム化比較実験は見出されなかった。

## 考察

本レビューでは、ギャング防止に対する認知行動的介入の有効性または無効性に関し、ランダム化比較実験または準ランダム化比較実験からのエビデンスが見出されなかった。「ギャングに対する抵抗教育訓練」(GREAT)に関する4件の除外された研究の結果は一貫しておらず、プログラムの効果をそれほどはっきりと示してはいなかったといえる。このプログラムに参加した生徒に関する1件のケーススタディでは、介入前と介入後に有意ではないわずかな態度指標の変化が見られ、その多くはプラスの方向へのプログラムの効果を示すものであった (Palumbo 1995)。1件のコホート研究では、介入を受けた群と対照群の両方で介入前より介入後のほうがギャングに抵抗する態度が増加しており、GREATへの参加による効果は見られなかった (Ramsey 2003)。GREATプログラムに参加した若者と参加していない若者を比較する1件の横断的な調査では、23のピアグループ・態度指標のうち9つ、および8つの行動指標のうち2つ（薬物の使用と軽微な違法行為）で、GREATへの参加の効果を示す統計的に有意な差が見られた (Esbensen 1999)。同様にGREATに参加した若者と参加していない若者を比較する1件の長期的なコホート研究では、危険志向的行動や虐待を含め、32の態度指標と行動指標のうち5つで、GREATへの参加の効果を示す統計的に有意な差が見られた (Esbensen 2001)。ギャングのメンバーかどうかを調査した研究は2件だけであり (Esbensen 1999 ; Esbensen 2001)、そのどちらもGREATへの参加の効果は統計的に有意ではなかった。しかし、「研究の記述」の項において論じたように、研究のデザインの問題のために、これらの研究のすべてが分析から除外された。ゆえに、このシステマティック・レビューの結果からは、青少年のギャングへの関与を防ぐ上での認知行動的介入の有効性または無効性についていかなる結論を導くこともできない。

## レビューアの結論

### 実務への示唆

このきわめて感度の高い検索方法により、ギャング防止のための認知行動的介入に関するランダム化比較実験または準ランダム化比較実験が見つからなかったことから、将来の介入活動および政策決定に関して実務者に助言を行うことが困難である。学校ベースの認知行動的防止プログラム「ギャングに対する抵抗教育訓練」(GREAT) を評価する4件の除外された研究は、そのような認知行動的介入に多少のプラスのインパクトがある可能性を示している。しかし、これらの除外された研究のデザインには方法論的な弱点があることから、プログラムの有効性、無効性、または有害性について確定的な結論を導くことができない。ゆえに、将来の実務に対する主な勧告は、既存の、または開発中の認知行動的防止プログラムに関して、ギャングに関連したアウトカムを含む厳密な一次評価を要求すべきだということである。この研究分野を発展させ、将来の資金供給と介入のあり方の指針を示すために、そうした厳密な評価を行うことが急務である。

## 研究への示唆

除外された4件の研究のいずれかにランダム化または準ランダム化された割付けを含む厳密な研究デザインが用いられていたならば、その研究結果はこのシステマティック・レビューに含むことができたであろう。また、長期間にわたる研究の実施者 (Esbensen 2001) がそれぞれの都市および／または学校の割付けプロセスを明確に記録していたならば、その研究の一部も本レビューに含むことができたと思われる。これらの評価から導かれる可能性のあるインパクトは、その研究デザインのために本質的に制約されている。実施された研究の少なさ、および連邦アルコール・タバコ・火器取締局と国立司法研究所の後援によって行われた2件を含め、こうした評価の実行と資金提供の方法論的な厳密さに十分な注意が払われていないという現状は、容認できるものではない。研究者、資金提供機関、政策決定者はいずれも、青少年のギャングへの関与とそれに伴う犯罪・非行を削減するために、水準の高い社会調査を要求すべきである。

## 謝辞

研究の方法について助言をしてくれたコクラン発達・心理社会・学習障害グループの調査

検索コーディネーター、ジョー・アボット、および編集とフォーマットिंगをしてくれた実証的介入センターのジェニファー・バートンに謝意を表す。

### 起こりうる利害の衝突

本レビューはノルディック・キャンベル・センターによって支援された。レビューーらに既知の利害の衝突はない。

## 除外された研究の特徴

研究	除外した理由
<p>Esbensen 1999</p>	<p><b>割付け：</b>ランダム化されていない。2つの事後比較群による横断的研究</p> <p><b>参加者：</b>11都市の5,935人の8年生</p> <p><b>介入：</b>ギャングに対する抵抗教育訓練（GREAT）</p> <p><b>報告された結果：</b>8つの行動指標のうちの2つ（麻薬の使用と軽微な違法行為）と23の態度・ピアグループ指標のうちの9つ（ギャングに対する否定的な態度、非行者である友人の数、向社会的仲間の数、向社会的仲間とのつきあい、衝動性、自尊心、学校生活へのまじめな取り組み、母性的・父性的愛着）に関し、3つのサンプルすべてにおいてGREATへの参加者の効果を示す統計的に有意な差が見られた（<math>p&lt;.05</math>、両側検定）。ギャングのメンバーであること、非行、対人犯罪、対物犯罪に関しては、1つのサンプルにおいてのみ、介入群のほうが有利な非有意または有意な差が見られた。統計的に有意な差はすべて、効果量0.10の範囲であった。</p> <p><b>方法論上の長所：</b>地理的に多様性がある。交絡の可能性をコントロールするために、ダミー変数を使って漸次サンプルを制限している。対象者減少率が低い。</p> <p><b>方法論上の限界：</b>生徒がランダムに割り付けられておらず、所属するクラスによって前もって決められている。グループの比較可能性を判断するためのベースライン・アセスメントが行われていない。公立学校の調査に伴う母集団のバイアスの可能性がある。行動上のアウトカム指標がない。</p>
<p>Esbensen 2001</p>	<p><b>割付け：</b>ランダム化されておらず、クラスによって決められている。割付けのプロセスが都市および学校によって異なる。</p> <p><b>参加者：</b>米国の6都市における22の学校の153クラスの生徒3,568人</p> <p><b>介入：</b>ギャングに対する抵抗教育訓練（GREAT）</p> <p><b>報告された結果：</b>2年後の追跡調査において、介入前と介入後の比較に統計的に有意な（<math>p&lt;.05</math>）変化が見られたのは1つの指標だけであった。これは偶然によって予測される数よりも少ない。介入前と介入後の変化の半分以上</p>

	<p>は、プログラムが厳密に実行されたと証明されている選択的分析地点に限っても、プログラムの望ましくない効果を示すものであった。4年後の追跡調査では、32のアウトカム指標のうち28において、GREATを受けた生徒に望ましい効果が見られたが、統計的に有意な差があったのは5つの指標のみであった（危険志向的行動、虐待、警察に対する肯定的な態度、ギャングに対する否定的な態度、向社会的活動にかかわる友人の数、<math>p&lt;.05</math>）。効果量の平均は、統計的に有意な差が見られた5つの指標では0.11、すべての指標では0.04であった。ギャングのメンバーであるかどうか、薬物の使用、軽微な対人的・対物的非行行動、または自己報告による非行者かどうかに関しては、有意な差は見られなかった。</p> <p><b>方法論上の長所：</b>高レベルの分析単位の体系的な変動性を反映する残差分散の要素を取り入れるために、入れ子になった4つの分析のレベルと4つの階層的モデルを使用している。4年間の追跡期間を設けている。</p> <p><b>方法論上の限界：</b>割付けのプロセスが不明確である。22校のうち15校では方法の特定できない無作為割り付けが用いられ、22校のうち7校では警察官の配置の都合または学校区の制約のために、有意割付けが用いられた。どの学校にどちらの割付けが用いられたかが明確にされていない。原著者は具体的なプロセスを思い出すことができず、文書を提供することもできなかった。</p>
<p>Palumbo 1995</p>	<p><b>割付け：</b>ランダム化されていない。比較群なし。</p> <p><b>参加者：</b>2,029人の生徒。大部分は7年生。（介入後試験では1,723人）</p> <p><b>介入：</b>ギャングに対する抵抗教育訓練（GREAT）</p> <p><b>報告された結果：</b>態度、報告された抵抗のスキル、カリキュラムの知識、ギャングメンバーになりたいと回答した生徒の割合に有意ではないわずかな差が見られた。それらは、全般的に、プログラムにプラスの効果があったと考えられる方向への変化であった。自尊心、またはギャングメンバーである友達がいると回答した生徒の割合には変化が見られなかった。</p> <p><b>方法論上の限界：</b>比較群がないために、介入以外の要因がアウトカム指標に影響を及ぼしたかどうかを評価することができない。アウトカム指標は、意図または表明された内容を評価していない可能性がある。追跡期間が設けら</p>

	<p>れていないため、プログラムの影響の持続性、または遅れて現れる効果について評価することができない。</p>
<p>Ramsey 2003</p>	<p><b>割付け</b>：ランダム化されていない。割付けは学年を条件としている。</p> <p><b>参加者</b>：介入を受けた 7 年生 (274 人) と、同じ学校で介入を受けなかった 8 年生 (148 人)</p> <p><b>介入</b>：ギャングに対する抵抗教育訓練 (GREAT)</p> <p><b>報告された結果</b>：実験群も対照群も介入前より介入後のほうがギャングに抵抗する態度が大きかったが、GREAT に参加したことがこの違いを導いたという証拠は得られなかった。両群とも、危険志向的行動、警察官に対する態度、衝動性、不道德な行為と合理化、ギャングメンバーであることのメリットとデメリットの認識、および強制選択 15 項目のうちの 11 項目で、介入前・介入後の有意な主効果が見られた (<math>p &lt; .0083</math>、多重分散分析のボンフェローニ修正モデルに基づく) が、介入前・介入後の試験と実験 - 対照変数の間に有意な相互関係は見られなかった。これは GREAT への参加が介入前/介入後試験の変化に影響を及ぼしていないことを示唆している。</p> <p><b>方法論上の限界</b>：ランダム化がなされておらず、各群間に存在する可能性のある交絡因子の分布の調査が行われていないため、ベースラインの比較可能性と選択のバイアスの評価ができない。地理的な多様性が最小であるため、一般化に問題がある。プログラム実行の厳密性、または参加者が受けた介入に関する測定が行われていないため、内部妥当性が限定的である。態度の変化のみしか調査されていないため、結果の妥当性と信頼性が限定的である。</p>

## 参考文献

### 除外した研究

**Esbensen 1999** {published data only}

\* Esbensen F-A , Osgood D. Gang Resistance Education and Training (GREAT): Results from the national evaluation. *Journal of Research in Crime and Delinquency* 1999;36(2):194-225.

**Esbensen 2001** {published data only}

\* Esbensen F-A, Osgood DW, Taylor TJ, Petersen D, Freng A Peterson, Dana Freng, Adrienne. How Great is G.R.E.A.T? Results from a longitudinal, quasi-experimental design. *Criminology and Public Policy* 2001;1(1):87-118.

**Palumbo 1995** {published data only}

\* Palumba DJ and Ferguson JL. Evaluating gang resistance education and training (GREAT): Is the impact the same as that of drug abuse resistance education (DARE)? *Evaluation Review* 1995;19(6):597-619.

**Ramsey 2003** {published data only}

\* Ramsey AL, Rust JO and Sobel M. Evaluation of the gang resistance and training (G.R.E.A.T.) program: A school-based prevention program. *Evaluation* 2003;124:297-309.

### 評価待ちの研究

**Lacourse 2003** {published data only}

Lacourse É, Côté S, Tremblay RE. A Longitudinal-Experimental Design to Test the Role of Parenting and Peer Developmental Trajectories as a Mediator of Violent Antisocial Behavior during Adolescence. Washington, DC: Society for Prevention Research., 2003.

\* *indicates the primary reference for the study*



## その他の文献

### 追加的文献

#### **Andreassen 2006**

Andreassen TH, Armelius B, Egelund T, Ogden T. Cognitive-behavioural treatment for antisocial behavior in youth in residential treatment (Protocol). Cochrane Database of Systematic Reviews 2006, Issue 1.

#### **Battin 1998**

Battin SR, Hill KG, Abbott RD, Catalano RF, Hawkins JD. The contribution of gang membership to delinquency beyond delinquent friends. *Criminology* 1998;36(1):93-116.

#### **Carlsson 2005**

Carlsson Y, Decker SH. Gang and youth violence prevention and Intervention: Contrasting the Experience of the Scandinavian Welfare State with the United States. In: *European Street Gangs and Troublesome Youth Groups*. Lanham, MD: Alta Mira, 2005:259-286.

#### **Connor 2002**

Connor DF. *Aggression and antisocial behaviour in children and adolescents: Research and treatment*. New York: The Guilford Press, 2002.

#### **Counsell 1994**

Counsell C, Clarke M, Slattery J, Sandercock P. The miracle of DICE therapy for acute stroke: fact or fictional product of subgroup analysis? *BMJ Clinical Research* 1994;309(6970):1677-1681.

#### **Covey 2003**

Covey HC. *Street gangs throughout the world*. Springfield, IL: Charles C Thomas, 2003.

#### **Dane 1998**

Dane A, Schneider B. Program integrity in primary and early secondary prevention: Are implementation effects out of control? *Clinical Psychology Review* 1998;18:23-45.

**Decker 2005**

Decker SC, Weerman FM. European street gangs and troublesome youth groups. Lanham, MD: Alta Mira, 2005.

**Deeks 2005**

Deeks J, Macaskill P, Irwig L. The performance of tests of publication bias and other sample size effects in systematic review of diagnostic test accuracy was assessed. *Journal of Clinical Epidemiology* 2005;58(9):882-893.

**Delgado 2004**

Delgado M, Llorca J. Bias. *Journal of Epidemiology and Community Health* 2004;58(8):635-641.

**Dishion 1999**

Dishion TJ, Capaldi DM, Yoerger K. Middle childhood antecedents to progressions in male adolescent substance use: An ecological analysis of risk and protection. *Journal of Adolescent Research* 1999;14(2):175-205.

**Dishion 2005**

Dishion TJ, Nelson SE, Yasui M. Predicting early adolescent gang involvement from middle school adaptation. *Journal of Clinical Child and Adolescent Psychology* 2005;34(1):62-73.

**DOH 2001**

DOH. In: Treatment choice in psychological therapies and counselling: Evidence-based clinical practice guideline. Care Guideline. London: Department of Health, 2001.

**Egger 1997**

Egger M, Davey Smith G, Schneider M, Minder, C. Bias in meta-analysis detected by a simple, graphical test. *BMJ Clinical Research* 1997;315(7109):629-634.

**Egley 2000**

Egley A Jr. Highlights of the 1999 National Youth Gang Survey. In: Fact Sheet. Washington, DC: US Department of Justice, Office of Juvenile Justice and Delinquency Prevention, 2000.

**Egley 2006**

Egley A Jr, Howell JC, Major AK. National Youth Gang Survey 1999-2001. In: OJJDP Summary. Washington DC: US Department of Justice, Office of Juvenile Justice and Delinquency Prevention, 2006.

**Esbensen 2000**

Esbensen F-A. Preventing adolescent gang involvement. Bulletin. Washington, DC: US Department of Justice, Office of Juvenile Justice and Delinquency Prevention, 2000.

**Esbensen 2002**

Esbensen F-A, Freng A, Taylor TJ, Petersen D, Osgood DW. National Evaluation of the Gang Resistance Education and Training (G.R.E.A.T.) Program. In: Reed WL, Deckers SH, editor(s). *Responding to Gangs: Evaluation and Research*. Washington DC: National Institute of Justice, US Department of Justice, 2002.

**Esbensen 2005**

Esbensen F-A, Weerman FM. Youth gangs and troublesome youth groups in the United States and the Netherlands; a cross-national comparison. *European Journal of Criminology* 2005;2(1):5-37.

**Farrington 2002**

Farrington DP. Developmental criminology and risk-focussed prevention. In: Maguire M, Morgan R, Reiner R, editor(s). *The Oxford Handbook of Criminology*. Oxford:

Oxford University Press, 2002:657-701.

**Gibbs 1993**

Gibbs JC. Moral-cognitive interventions. In: Goldstein AP, Huff CR, editor(s). The Gang Intervention Handbook. Champaign, IL: Research Press, 1993.

**Goldstein 1993**

Goldstein AP. Gang intervention: A historical review. In: Goldstein AP, Huff CR, editor(s). The Gang Intervention Handbook. Champaign IL: Research Press, 1993.

**Higgins 2002**

Higgins J and Thompson S. Quantifying heterogeneity in a meta-analysis. *Statistics in Medicine* 2002;21(11):1539-1558.

**Higgins 2003**

Higgins J, Thompson S, Deeks J, Altman D. Measuring inconsistency in meta-analyses. *BMJ Clinical Research* 2003;327(7414):557-60.

**Higgins 2005**

Higgins J, Green S. *Cochrane Handbook for Systematic Reviews of Interventions*. The Cochrane Library. 3 edition. Chichester, UK: John Wiley & Sons, Ltd, 2005.

**Hill 1999**

Hill KG, Howell JC, Hawkins JD, Battin-Pearson SR. Childhood risk factors for adolescent gang membership: Results from the Seattle Social Development Project. *Journal of Research in Crime and Delinquency* 1999;36(3):300-322.

**Hill 2001**

Hill KG, Lui C and Hawkins JD. In: *Early precursors of gang membership: A study of Seattle youth*. Bulletin. Washington, DC: US Department of Justice, Office of Juvenile Justice and Delinquency Prevention, 2001:5.

**Hollin 1993**

Hollin CR. Cognitive-behavioural interventions. In: Goldstein AP, Huff CR, editor(s).

The Gang Intervention Handbook. Champaign, IL: Research Press, 1993.

**Howell 1998**

Howell, JC. Youth Gangs: An Overview. Bulletin. Washington, DC: US Department of Justice, Office of Juvenile Programs, Office of Justice and Delinquency Prevention, 1998.

**Huff 1993**

Huff CR. Gangs in the United States. In: Goldstein AP, Huff CR, editor(s). The Gang Intervention Handbook. Champaign, IL: Research Press, 1993.

**Huff 1998**

Huff CR. Comparing the criminal behaviour of youth gangs and at-risk youths. Research in brief. Washington, DC: United States Department of Justice, Office of Justice Programs National Institute of Justice, 1998.

**Juni 2001**

Juni P, Altman DG, Egger M.. Systematic reviews in health care: Assessing the quality of controlled clinical trials. *BMJ Clinical Research* 2001;323(7303):42-46.

**Klein 1995**

Klien MW. The American street gang: Its nature, prevalence, and control. New York: Oxford University Press, 1995.

**Klein 2006**

Egley A Jr, Maxson CL, Miller J, Klein MW. Street gangs: A cross-national perspective. In: The modern gang reader. Los Angeles, CA: Roxbury Publishing Company, 2006.

**Kodluboy 1993**

Kodluboy DW, Evenrud LA. School-based interventions: Best practices and critical issues. In: Goldstein AP, Huff CR, editor(s). The Gang Intervention Handbook. Research Press: Champaign, IL, 1993.

**Landenberger 2005**

Landenberger NA, Lapsey MW. The positive effects of cognitive-behavioural programs for offenders: A meta-analysis of factors associated with effective treatment. *Journal of Experimental Criminology* 2005;1:451-476.

**Lipsey 2001**

Lipsey MW, Chapman GL, Landenberger NA. Cognitive-behavioral programs for offenders. *The Annals of the American Academy of Political Science* 2001;578:144-157.

**Lipsey 2006**

Lipsey MW, Landenberger NA. Cognitive-behavioural programs for juvenile and adult offenders: A meta-analysis of controlled intervention studies. *The Campbell Collaboration* ([www.campbellcollaboration.org](http://www.campbellcollaboration.org)) 2006 (October):21.

**Lochman 1994**

Lochman JE, Dodge KA. Social-cognitive processes of severely violent, moderately aggressive and non-aggressive boys. *Journal of Consulting and Clinical Psychology* 1994;62(2):366-74.

**Lundman 2001**

Lundman RJ. *Prevention and control of juvenile delinquency*. New York: Oxford University Press, 2001.

**Maxson 1998**

Maxson CL, Whitlock ML, Klein MW. Vulnerability to street gang membership: Implications for practice. *Social Service Review* 1998;March:70-91.

**McGuire 2000**

McGuire J. *Cognitive-behavioural approaches: An introduction to theory and research*. Communication Directorate. London: Home Office, 2000.

**Moher 1999**

Moher D, Cook D, Eastwood S, Olkin, I, Rennie D, Stroup D. Improving the quality of reports of meta-analyses of randomised controlled trials: the QUOROM statement. *Lancet* 1999;354:1896-1900.

**Montgomery 2005**

Montgomery P, Gardner F, Operario D, Mayo-Wilson E, Tamayo S, Underhill K. In: *The Oxford Implementation Reporting Index: The development of an indicator of treatment fidelity in systematic review of psycho-social interventions (poster)*. Melbourne: XIII Cochrane Colloquium, 22-26 October, 2005.

**Moore 1998**

Moore JP and Terrett CP. Highlights of the 1996 national youth gang survey. Fact Sheet. US Department of Justice, Office of Justice Programs, Office of Juvenile Justice and Delinquency Prevention: Washington, DC, 1998.

**Moore 1999**

Moore JP and Cook IL. Highlights of the 1998 National Youth Gang Survey. In: Fact Sheet. Washington, DC: US Department of Justice, Office of Juvenile Justice and Delinquency Prevention, 1999.

**MRC 2000**

MRC. A framework for development and evaluation of RCTs for complex interventions to improve health. London: Medical Research Council, 2000.

**OJJDP 2004**

OJJDP. Gang Prevention. Model Programs Guide Version 2.5 2004.

**Oxman 1992**

Oxman A and Guyatt G. A consumer's guide to sub-group analyses. *Annals of Internal Medicine* 1992;116(1):78-84.

**Papachristos 2005**

Papachristos AW. Gang World. *Foreign policy* 2005;147(Mar/Apr):48-55.

**Pearson 2002**

Pearson FS, Lipton DS, Cleland CM, Yee DS. The effects of behaviour/cognitive-behavioural programs on recidivism. *Crime and Delinquency* 2002;48(3):476-495.

**Ribisl 1993**

Ribisl KM, Davidson WS. Community change interventions. In: Goldstein AP, Huff CR, editor(s). *The Gang Intervention Handbook*. Champaign, IL: Research Press, 1993.

**Snyder 2006**

Snyder HN, Sickmund M. *Juvenile Offenders and Victims: 2006 National Report*. Washington, DC: US Department of Justice, Office of Justice Programs, Office of Juvenile Justice and Delinquency Prevention, 2006.

**Spergel 1993**

Spergel IA, Curry GD. The national youth gang survey: A research and development process. In: Goldstein AP, Huff CR, editor(s). *The Gang Intervention Handbook*. Champaign, IL: Research Press, 1993.

**Spergel 1994**

Spergel I, Curry D, Chance R, Kane C, Ross R, Alexander A, Simmons E, Oh S. *Gang suppression and intervention: Problem and response. Research Summary*. Washington, DC: US Department of Justice, Office of Juvenile Justice and Delinquency Prevention, 1994.

**Stephens 1993**

Stephens RD. School-based interventions: Safety and security. In: Goldstein AP, Huff CR, editor(s). *The Gang Intervention Handbook*. Champaign, IL: Research Press, 1993.

**Sterne 2001**

Sterne JA, Egger M. Funnel plots for detecting bias in meta-analysis: guidelines on



choice of axis. *Journal of Clinical Epidemiology* 2001;54(10):1046-1055.

**Stinchcomb 2002**

Stinchcomb JB. Promising (and not-so-promising) gang prevention and intervention strategies: A comprehensive literature review. *Journal of Gang Research* 2002;10(1):27-46.

**Thornberry 1997**

Thornberry, TP, Burch JHI. Gang members and delinquent behavior. *Bulletin*. Washington, DC: US Department of Justice, Office of Justice Programs, Justice and Delinquency Prevention, 1997.

**Turner 2007**

Turner W, MacDonald GM, Dennis JA. Cognitive-behavioural training interventions for assisting foster carers in the management of difficult behaviour. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2007, Issue 1.

**Wasserman 2003**

Wasserman GA, Keenan K, Tremblay RE, Coie JD, Herrenkohl TI, Loeber R, Petechuk D. Risk and protective factors of child delinquency. *Child Delinquency Bulletin Series*. Washington, DC: US Department of Justice, Office of Justice Programs, Office of Juvenile Justice and Delinquency Prevention, 2003.

**White 2002**

White R. *School Strategies to Deal with Gangs; trends & issues in crime and criminal justice*. 6 edition. Canberra: Australian Institute of Criminology, 2002.

**Wilson 2005**

Wilson DB, Bouffard LA, MacKenzie DL. A quantitative review of structured, group-oriented, cognitive-behavioral programs for offenders. *Criminal Justice and Behaviour* 2005;32(2):172-203.

**Yusuf 1991**

Yusuf S, Wittes J, Probstfield J, Tyroler HA. Analysis and interpretation of treatment

effects in subgroups of patients in randomised clinical trials. JAMA  
1991;266(1):93-98.

## 付表

### 01 ASSIA searched 1987 to April 2007

#### ASSIA

1. ASSIA, Applied Social Science Index & Abstracts (1987 to April 2007) was searched using CSA and the following terms:

(((young people) or adolescen\* or child\* or boy\* or girl\*) or KW=(youth\* or adolescen\* or juvenile\* or child\* or schoolchild\* or boy\* or girl\* or teen\*)) and [DE=(delinquen\* or devian\* or (juvenile crime) or (antisocial bheavio\*r) or gangs or (criminal gangs) or (street gangs) or (youth gangs)) or KW=(gang\* or (youth within 3 group\*) or delinquen\* or devian\* or anti\*social)] and [DE=((cognitive therapy) or (cognitive-behavio\*ral factors) or (behavio\*ral training) or (behavio\*r modification) or (behavio\*r therapy) or (cognitive behavio\*r therapy) or (psychological skills training) or (social skills training) or (cognitive skills training)) or KW=((cognitive within 3 therap\*) or (cognitive within 3 training) or (behavio\*r within 3 therap\*) or (behavio\*r within 3 training) or (behavio\*r within 3 modif\*) or (skill\* within 3 training))]

## 02 CINAHL searched 1982 to April Week 4 2007

### CINAHL

CINAHL, Cumulative Index to Nursing and Allied Health (1982 to April Week 4 2007) was searched using OVID and the following terms:  
 [(adolescent/ or child/) or (youth\$ or adolescen\$ or juvenile\$ or child\$ or schoolchild\$ or boy\$ or girl\$ or teen\$ or (young person\$) or (young people\$)).tw.] and [(juvenile delinquency/ or Gangs/) or (gang\$ or (youth\$ adj3 group\$) or delinquen\$ or devian\$ or anti?social).tw.] and [(cognitive therapy/) or ((cognitive adj3 therap\$) or (cognitive adj3 train\$) or (behavio?r adj3 therap\$) or (behavio?r adj3 train\$) or (behavio?r adj3 modif\$) or (skill\$ adj3 train\$)).tw.]

## 03 Criminal Justice Abstracts 1968 to November 2007

### CJA

CJA, Criminal Justice Abstracts, (1968 to November 2007) was searched using CSA and the following terms:  
 [(DE=juvenile) or (KW=(youth\* or adolescen\* or juvenile\*) or KW=(child\* or schoolchild\* or boy\*) or (girl\* or teen\* or young person\* or young people\*))] and [(DE=(juvenile delinquency)) or (KW=(gang\* or (youth\* within 3 group\*))) or (KW=(delinquen\* or devian\* or anti\*social))] and [((DE=(treatment programs)) or (KW=(cognitive within 3 therap\*) or (cognitive within 3 train\*) or (behavio\*r within 3 therap\*) or (behavio\*r within 3 train\*) or (behavio\*r within 3 modif\*) or (skill\* within 3 train\*)))]

## 04 Diss Abstracts 1861 to April 2007

### Diss Abstracts

Dissertation Abstracts International A: The Humanities and Social Sciences (1861 to April 2007) was searched using the following terms:  
[youth? or adolescen? or juvenile? or child? or schoolchild? or boy? or girl? or teen? or (young person?) or (young people?)] and [delinquen? or devian? or anti-social or antisocial or gang? or (youth? W/15 group?)] and [(cognitive W/15 therap?) or (cognitive W/15 training) or (behavi?r W/15 therap?) or (behavi?r W/15 training) or (behavi?r W/15 modif?) or (skill? W/15 training) or SU(Psychology, Cognitive) or SU(Psychology, Behavioral)]

## 05 EMBASE searched 1980 to 2007 Week 17

### EMBASE

EMBASE (1980 to 2007 Week 17) was searched using OVID and the following terms:  
[adolescent/ or juvenile/ or child/ or boy/ or girl/ or preschool child/ or school child/ or adolescence/ or childhood/ or (youth\$ or adolescen\$ or juvenile\$ or child\$ or schoolchild\$ or boy\$ or girl\$ or teen\$ or (young person\$) or (young people\$)).tw.] and [delinquency/ or gang/ or juvenile delinquency/ or Antisocial Behavior/ or (gang\$ or (youth\$ adj3 group\$) or delinquen\$ or devian\$ or anti?social).tw.] and [behavior modification/ or behavior therapy/ or cognitive therapy/ or ((cognitive adj3 therap\$) or (cognitive adj3 train\$) or (behavio?r adj3 therap\$) or (behavio?r adj3 train\$) or (behavio?r adj3 modif\$) or (skill\$ adj3 train\$)).tw.]

## 06 ERIC (Educational Resources Information Center Unlimited) 1966 to May 2007

### ERIC

ERIC, Educational Resources Information Center (Unlimited, 1966 to May 2007) was searched using CSA and the following terms:

[DE=(youth\* or adolescen\* or child\* or (young adult\*) or preadolescen\* or (late adolescen\*)) or KW=(youth\* or adolescen\* or juvenile\* or child\* or schoolchild\* or boy\* or girl\* or teen\* or (young person\*) or (young people\*))] and [DE=(delinqueny or (juvenile gangs)) or KW=(gang\* or (youth within 3 group\*) or delinquen\* or devian\* or anti\*social)] and [DE=((cognitive restructuring) or (behavio\*r modification)) or KW=((cognitive within 3 therap\*) or (cognitive within 3 training) or (behavio\*r within 3 therap\*) or (behavio\*r within 3 training) or (behavio\*r within 3 modif\*) or (skill\* within 3 training))]

## 07 IBSS (International Bibliography of the Social Sciences) 1951 to April 2007

### IBSS

IBSS, International Bibliography of the Social Sciences (1951 to April Week 04 2007) was searched using OVID and the following terms:

[(youth or adolescents or adolescence or children).sh. or (youth\$ or adolescen\$ or juvenile\$ or child\$ or schoolchild\$ or boy\$ or girl\$ or teen\$ or (young person\$) or (young people\$)).tw.] and [juvenile delinquency.sh. or gangs.sh. or (gang\$ or (youth\$ adj3 group\$) or delinquen\$ or devian\$ or anti?social).tw.] and [(cognitive behaviour theory cbt or cognitive behaviour therapy).sh. or ((cognitive adj3 therap\$) or (cognitive adj3 train\$) or (behavio?r adj3 therap\$) or (behavio?r adj3 train\$) or (behavio?r adj3 modif\$) or (skill\$ adj3 train\$)).tw.]

## 08 LexisNexis Butterworths Services, all subscribed journals up to April 2007

### LexisNexis

LexisNexis Butterworths Services, all subscribed journals (up to April 2007) was searched using the following terms:

[(youth or adolescen! or juvenile or child! or schoolchild! or boy or girl or teen! or (young person!) or (young people!))] and [(gang! or (youth w/3 group) or delinquen! or devian! or antisocial or anti\*social)] and [((cognitive w/3 therapy or training) or (behaviour w/3 therapy or training or modif!) or (behaviour w/3 therapy or training or modif!) or (skill w/3 training))]

## 09 LILACS (Latin American and Caribbean Health Services Literature) to April 2007

### LILACS

LILACS, Latin American and Caribbean Health Services Literature (up to April 2007) was searched using VHL and the following terms:

[youth\$ or adolescen\$ or juvenile\$ or child\$ or schoolchild\$ or boy\$ or girl\$ or teen\$ or (young person\$) or (young people\$) [Palavras] or "adolescent" or "child" [Descriptor de assunto]] and [gang\$ or (youth\$ adj3 group\$) or delinquen\$ or devian\$ or anti?social [Palavras] or "juvenile delinquency" [Descriptor de assunto] and [(cognitive adj3 therap\$) or (cognitive adj3 train\$) or (behavio?r adj3 therap\$) or (behavio?r adj3 train\$) or (behavio?r adj3 modif\$) or (skill\$ adj3 train\$) [Palavras] or "cognitive therapy" [Descriptor de assunto]

## 10 MEDLINE searched 1950 to April 2007

### MEDLINE

MEDLINE (1950 to April Week 3 2007) was searched using OVID and the following terms:

[(adolescent/ or child/) or (youth\$ or adolescen\$ or juvenile\$ or child\$ or schoolchild\$ or boy\$ or girl\$ or teen\$ or (young person\$) or (young people\$)).tw.] and [(juvenile delinquency/) or (gang\$ or (youth\$ adj3 group\$) or delinquen\$ or devian\$ or anti?social).tw.] and [(cognitive therapy/) or ((cognitive adj3 therap\$) or (cognitive adj3 train\$) or (behavio?r adj3 therap\$) or (behavio?r adj3 train\$) or (behavio?r adj3 modif\$) or (skill\$ adj3 train\$)).tw.]

## 11 National Criminal Justice Reference Service, Abstracts DB (up to October 2007)

### NCJR Service, Abs DB

National Criminal Justice Reference Service, Abstracts Database (up to October 2007) was searched using the following terms:

[(youth\* OR adolescen\* OR juvenile\* or child\* OR schoolchild\* OR boy\* OR girl\* OR teen\* OR (young people\*) OR (young person\*))] AND [(gang\* OR delinquen\* OR devian\* OR anti\*social OR (youth group\* within 3)] AND [((cognitive (therp\* OR train\*) within 3) OR (behavio\*r (therap\* OR train\* OR modif\*) within 3) OR (skill\* train\* within 3))]



## 12 PsycINFO (1806 to April Week 1 2007)

### PsycINFO

PsycINFO (1806 to April Week 1 2007) was searched using OVID and the following terms:

[(youth\$ or adolescen\$ or juvenile\$ or child\$ or schoolchild\$ or boy\$ or girl\$ or teen\$ or (young person\$) or (young people\$)).tw.] and [(juvenile delinquency/ or juvenile gangs/ or antisocial behavior/ or predelinquent youth/) or (gang\$ or (youth\$ adj3 group\$) or delinquen\$ or devian\$ or anti?social).tw.] and [(cognitive therapy/ Cognitive techniques/ or Cognitive behavior therapy/) or ((cognitive adj3 therap\$) or (cognitive adj3 train\$) or (behavio?r adj3 therap\$) or (behavio?r adj3 train\$) or (behavio?r adj3 modif\$) or (skill\$ adj3 train\$)).tw.]

## 13 Sociological Abstracts (inception to 2007)

### Soc Abstracts

Sociological Abstracts (Earliest to 2007) was searched using CSA and the following terms:

[DE=(youth\* or adolescen\* or child\* or (young adult\*)) or KW=(youth\* or adolescen\* or juvenile\* or child\* or schoolchild\* or boy\* or girl\* or teen\* or (young person\*) or (young people\*))] and [DE=(gangs or (juvenile offenders) or (juvenile delinqueny)) or KW=(gang\* or (youth within 3 group\*) or delinquen\* or devian\* or anti\*social)] and [DE=(cognition or (behavio\*r modification)) or KW=((cognitive within 3 therap\*) or (cognitive within 3 training) or (behavio\*r within 3 therap\*) or (behavio\*r within 3 training) or (behavio\*r within 3 modif\*) or (skill\* within 3 training))]

## 14 将来のアップデートに用いるためにアーカイブに保管されたレビュー方法

問題点	レビュー方法
データ管理	<p>データ抽出</p> <p>特別に作成したデータ抽出フォームを使って、レビューアがそれぞれ独立してデータ抽出を行う。</p> <p>基本的な統計値が提示されていない場合、または追加情報が必要な場合には、原著者に問い合わせる。</p> <p>関連する情報は研究の記述に含められる。</p>
データ収集	<p>同一の試験に 3 群以上の実験群（<b>treatment arm</b>）が含まれる場合には、すべての群が記述される。</p> <p>すべての試験群について以下のデータが収集される。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 参加者のデモグラフィを含む記述的データ（年齢、性別、民族、家族のギャングへの関与、以前の犯罪歴）</li> <li>2) 介入の特性（実行方法、期間、背景、介入内の変動性、プログラムスタッフのデモグラフィ）</li> <li>3) その介入のほかに受けるサービス</li> <li>4) 上に記載したアウトカム指標</li> </ol> <p>すべての研究について以下のデータが収集される。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 群の間の接触または重複、手順の修正、介入カリキュラムまたはプロトコルの使用、介入が実行される実際の頻度と期間（Dane 1998、Montgomery 2005、MRC 2000）</li> <li>2) 背景情報</li> </ol>
方法論的な質	<p>両レビューアが独立して、レビューに含まれる研究のそれぞれに、コクラン・ハンドブック（<b>Higgins 2005</b>）に記された質のカテゴリーを付与する。質のカテゴリーに関する当初の意見の不一致が追加情報によって解決されると</p>

<p>(続き)</p>	<p>考えられる場合には原著者に問い合わせ、それでも意見が一致しない場合は、CDPLPG のレビュー・グループ・コーディネーターに助言を求める。質のカテゴリーを決める基準は以下のとおりである。</p> <p>A)割付けが適切に隠蔽 (concealment) されていることを示している (たとえば、電話によるランダム化、あるいは順番に番号を振り、透明ではない封筒に入れて封をするなど)</p> <p>B)割付けが適切に隠蔽されているかどうか不明確である (たとえば、隠蔽の方法が明らかにされていないなど)</p> <p>C)割付けが適切に隠蔽されていないことをはっきりと示している (たとえば、オープン乱数表、または1日おき、誕生日を偶数と奇数に分ける、病院番号などを用いた準ランダム化が使用されている)</p> <p>「B」(不明確) および「C」(不適切) に分類された研究では、ベースラインに存在する可能性のある介入群と対照群の差異を特定するために、処置前のアセスメントと参加者の割付けが「研究の記述」に記される。</p> <p>比較実験の質を測定する既存の尺度は適切に構築されておらず、また十分に正当性が立証されておらず、システマティック・レビューにおいて各試験の質に異なる (ときには反対の) 評価がなされることが知られている (Moher 1995)。現在、「一般に、あるシステマティック・レビューにおいて明らかに質が低い、または高い試験を識別するために尺度が使われるべきではなく、関連する方法論的な面が事前に識別され、個別に評価されるべきである」ことが証拠から示されている (Juni 2001)。</p> <p>「研究の記述」に、ナラティブな形で以下の要素が記述される。</p> <p>1) 割付けのバイアス (群の割付けはアウトカムまたは受けた介入に関連していたか。結果の程度と方向性に対す</p>
-------------	---

<p>(続き)</p>	<p>る割付け方法の影響に注意が払われる。)</p> <p>2) 実行のバイアス (その介入のほかに介入群と対照群に与えられたケアに体系的な違いがあったか。提供されたサービスは比較される介入以外の何かに影響を受けた可能性があるか。)</p> <p>3) 検出のバイアス (アウトカムは、バイアスを受けた評価や検出への露出の影響を含め、対象となっている構成概念以外の何かに影響を受けたか。)</p> <p>4) 報告のバイアス (アウトカム、指標、分析が事前に選択され、完全に報告されたか。参加者は想起または回答のバイアスを受けたか。)</p> <p>5) 対象者減少のバイアス (欠損値やサンプルの脱落を含め、プロトコルからの逸脱が結果に影響を及ぼした可能性があるか。)(Delgado 2004、Juni 2001)</p> <p>6) アウトカムの妥当性 (アウトカム指標は客観的で、母集団に対する妥当性が確認され、ユーザーによって直接報告されている、または公式記録を通して入手されているか。)</p>
<p>複数の指標</p>	<p>1つの研究から同じアウトカムの複数の指標が示されるとき、レビューアはすべての指標を報告する。たとえば、ある研究に生活の質の2つの指標が含まれているとき(それらの指標は同じ回答者によって回答される場合も異なる回答者によって回答される場合もある)、両方を報告する。メタアナリシスのために複数のアウトカム指標を結合する場合、複数のメタアナリシスで結合することができる複数の指標が複数の研究から報告されているならば、複数のメタアナリシスを行う。各研究から使用できる効果の推定値のうち一つのみによってメタアナリシスを行う場合には、いずれかの指標の妥当性または信頼性が他の指標よりも高い指標を選択する。たとえば、1人の回答者が生活の質の複数の領域を評価する妥当性の証明された尺度と、妥当性の証明されていない視覚的な類似の尺度の両方に回答する場合、妥当性の証明されている尺度を選択する。研究に妥当性の程度が同様である複数の指標が含</p>

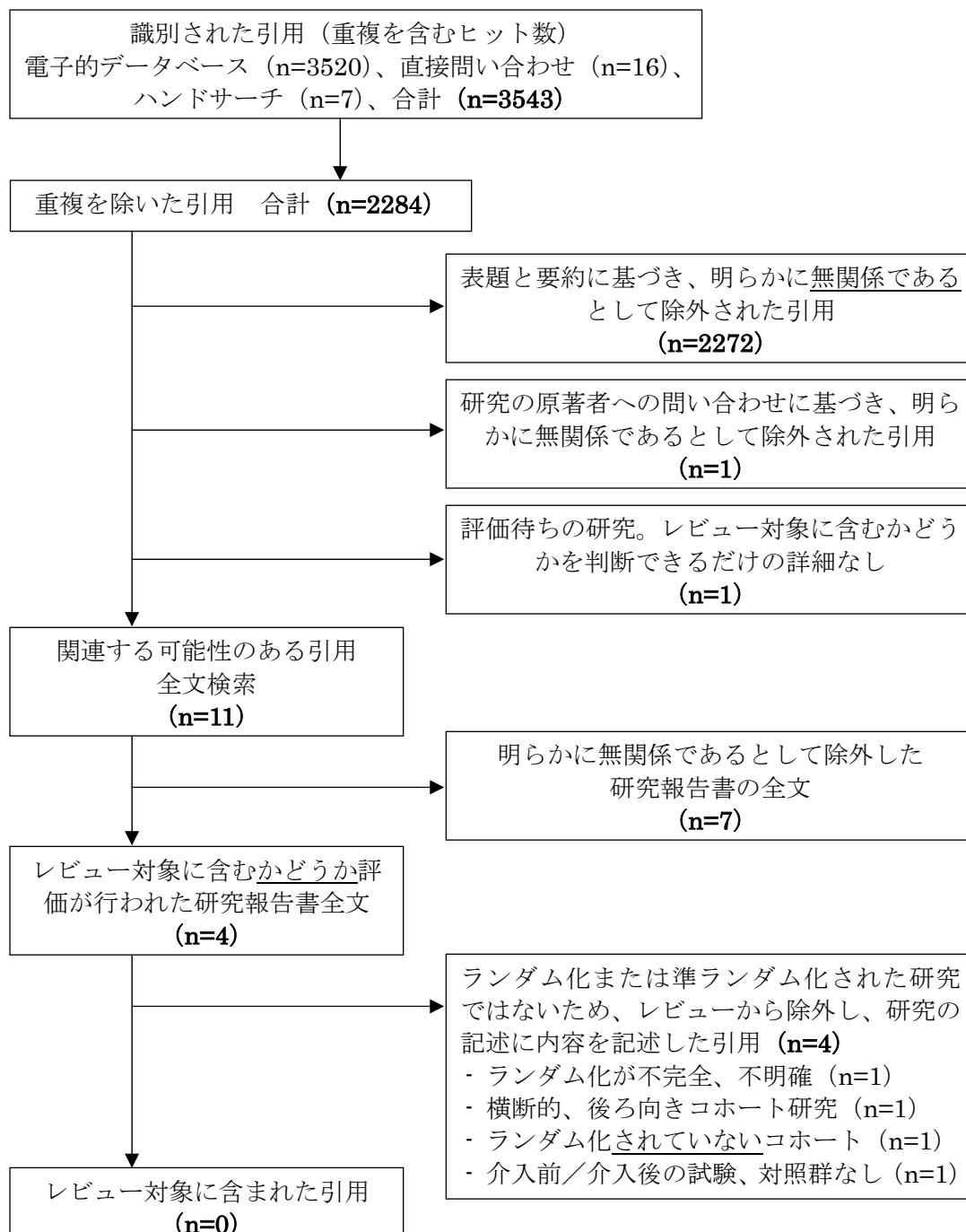
	まれ、メタアナリシスに利用できる効果の推定が1つだけである場合、この目的で平均の効果を計算する（たとえば、平均 SMD や分散で重み付けをした RR など）。
複数の群	2つ以上の適格な介入群が1つの適格な対照群と比較されており、ゆえに比較のため、またはメタアナリシスに含むためにレビュアーが1つの介入群を選ぶことが必要な場合、最も強いサービス、または個人支援の目標に最もよく適合するサービス（たとえばユーザーに大きな統制力を与えるサービスなど）がメタアナリシスに含まれる。1つの適格な介入群が複数の適格な対照群と比較される場合、比較のため、およびメタアナリシスに含むために、他の群よりも「無処置」対照群が選ばれる。無処置という条件が設定されていない研究の場合には、結果の外的妥当性を最大にするために、臨床において最も一般的な介入が選ばれる。
データの統合 (アウトカムデータ)	複数の研究を横断して比較可能なアウトカム指標を結合するために、メタアナリシスが行われることがある。すべての総合的効果は、inverse variance 法を用いて計算される。それぞれの研究には少々異なる処置または母集団が含まれる可能性があるため、ランダム効果モデルが用いられる。
連続データ	連続的なアウトカム指標の比較のために、平均差、標準化平均差 (SMD)、および 95%信頼区間が計算される。
2 値データ	各研究の中で、2 値アウトカム指標の比較のために、相対危険度 (RR) と 95%信頼区間が計算される。2 値アウトカム指標は、全体の RR と 95%信頼区間を計算することによって結合されることもある。
連続的なアウトカム	連続的なアウトカム指標は、正規性を仮定する統計的検定が不適切な場合を除き、平均と標準偏差、または完全な有意性検定の統計値が利用できるときに結合される。たとえば、ある有限の値（たとえば 0）で開始する尺度の場合、効果の推定値は、平均が標準偏差よりも大きくない限り、結合されない（そうでなければ、分布の中心の尺度として平均が適切である可能性は非常に低い）。どの研究でも連続的なアウトカムが同じ形で測定されているならば、全体の重み付け平均差 (WMD) と 95%信頼区間が計算される。同じ連続的なアウトカムが研究によって異なる

	形で測定されるならば、全体の標準化平均差 (SMD) と 95%信頼区間が計算される (Higgins 2005)。SMD は Hedges g を使って計算される。
分析のタイプ	参加者がもともと割り振られた群のメンバーとして分析される研究 (intention-to-treat : ITT 分析)、データを提供したいと考える参加者、またはデータを提供できる参加者のみを含む研究 (available-case 分析)、および研究のデザインに忠実な参加者を分析する研究 (per-protocol 分析 ; Higgins 2005) は、それぞれ区別して分析される。研究の報告、または原著者への問い合わせによって、参加者を除外した理由が判断できない研究は、per-protocol 分析とみなされる。
同質性	結果の一貫性が I 二乗検定を使って評価される (Higgins 2002 ; Higgins 2003)。異質性の証拠があるならば (Q 統計 p 値が 0.1 以下かつ I 二乗値が 25%以上)、事前に特定されたサブグループ分析と感度分析 (下記参照) に従って原因を検討するが、全体の効果量の推定は報告しない。サブグループ内に異質性が残るときには、ナラティブな要約に、それぞれの試験ごとの結果を報告する。
サブグループ分析	サブグループの数が多ければ誤った結論を導かれる可能性があるため、その数は最小に抑えるのが最善である (Counsell 1994 ; Oxman 1992 ; Yusuf 1991)。本レビューは、可能ならば、以下のサブグループに関してそれぞれの効果の推定値を含む。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) サービスの組織</li> <li>2) 居住地</li> <li>3) 障害の獲得</li> <li>4) 支援の量</li> </ol>
バイアスの評価	感度分析は、質の低い研究 (割付けのカテゴリーが C または D と評価されたもの) がレビュー結果に及ぼす影響

	<p>を調べる。公表のバイアスを含め、バイアスの可能性を調査するために、漏斗プロット（Funnel plot）が描かれる（Deeks 2005 ; Egger 1997 ; Sterne 2001）。非対称性が見られた場合、レビューアーは、適切な分析に関して、コクラン・キャンベル共同方法論部会をはじめとする方法論専門家の助言を求める。</p>
<p>グラフ</p>	<p>メタアナリシスが行われるとき、「効果なし」ラインの左の領域が個人支援の望ましいアウトカムを示すような形で、RevMan にデータが挿入される。</p>

## 追加図表

図 01



識別されたすべての引用から、認知行動的介入に関する適格なランダム化比較実験または準ランダム化比較実験を選定したプロセス



## 共同レビューワーの連絡先

Ms Herrick Fisher  
Researcher Centre for Evidence-Based Intervention  
University of Oxford  
Barnett House  
32 Wellington Square  
Oxford  
UK  
OX1 2ER  
Telephone 1: 44 1865 280325  
Facsimile: 44 1865 270324  
E-mail: [cricket.fisher@hertford.ox.ac.uk](mailto:cricket.fisher@hertford.ox.ac.uk)

Dr Frances Gardner  
University Lecturer  
Department of Social Policy and Social Work  
University of Oxford  
Barnett House  
32 Wellington Square  
Oxford  
UK OX1 2ER  
Telephone 1: +44 1865 270325  
E-mail: [frances.gardner@socres.ox.ac.uk](mailto:frances.gardner@socres.ox.ac.uk)